

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

2002年度 第1四半期決算説明会

伊藤忠テクノサイエンス株式会社

2002年8月7日

本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

第1 四半期決算概況

 常務取締役 経営統括部門長

 野添尚三

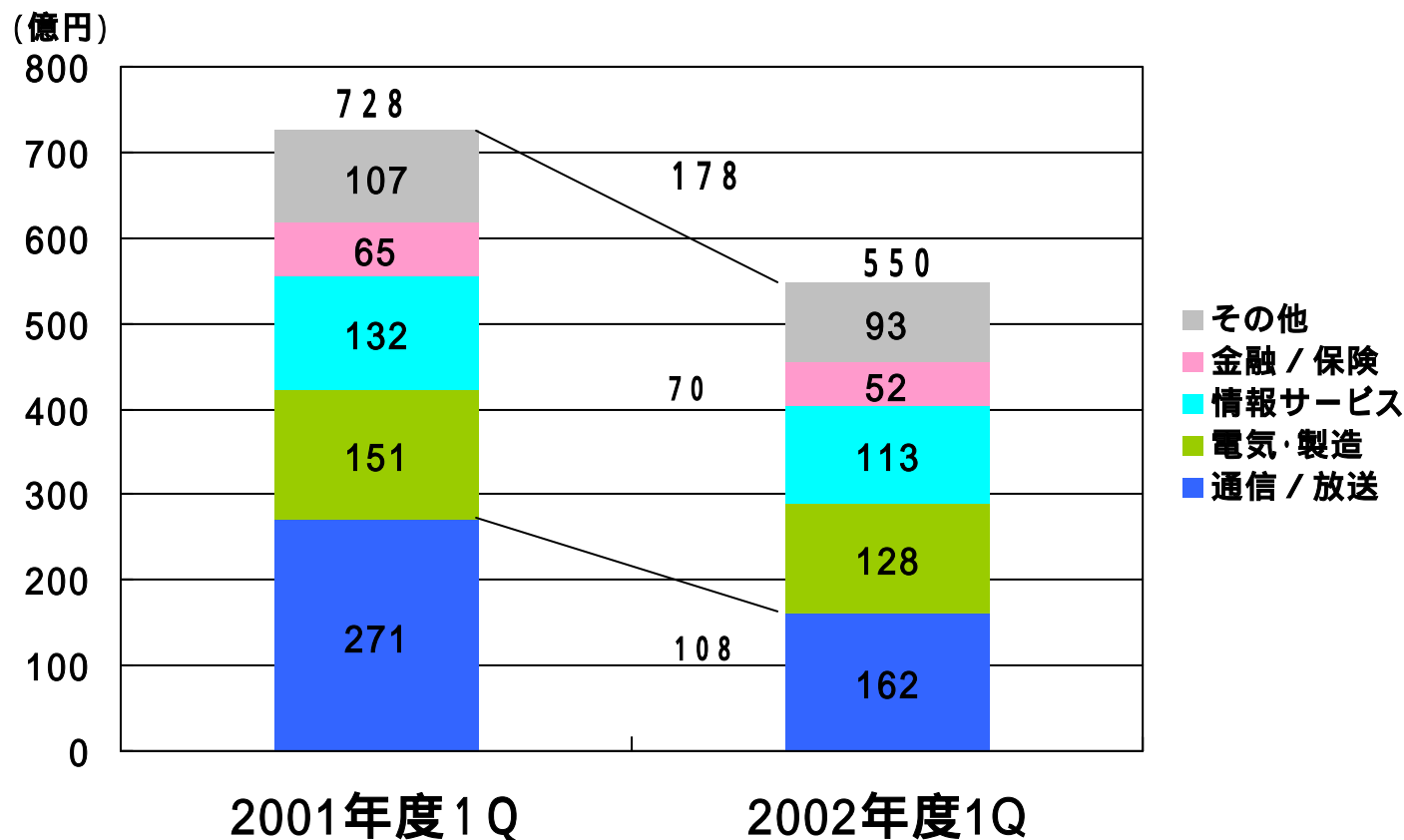
連結業績ハイライト

(金額:億円)

	2002年度 第1四半期	構成比	2001年度 第1四半期	構成比	前年同期比
売上高	550	100.0%	728	100.0%	24.5%
売上総利益	117	21.4%	145	20.0%	19.4%
営業利益	15	2.9%	38	5.3%	58.7%
経常利益	13	2.5%	36	5.1%	62.9%
当期純利益	6	1.2%	20	2.8%	68.7%

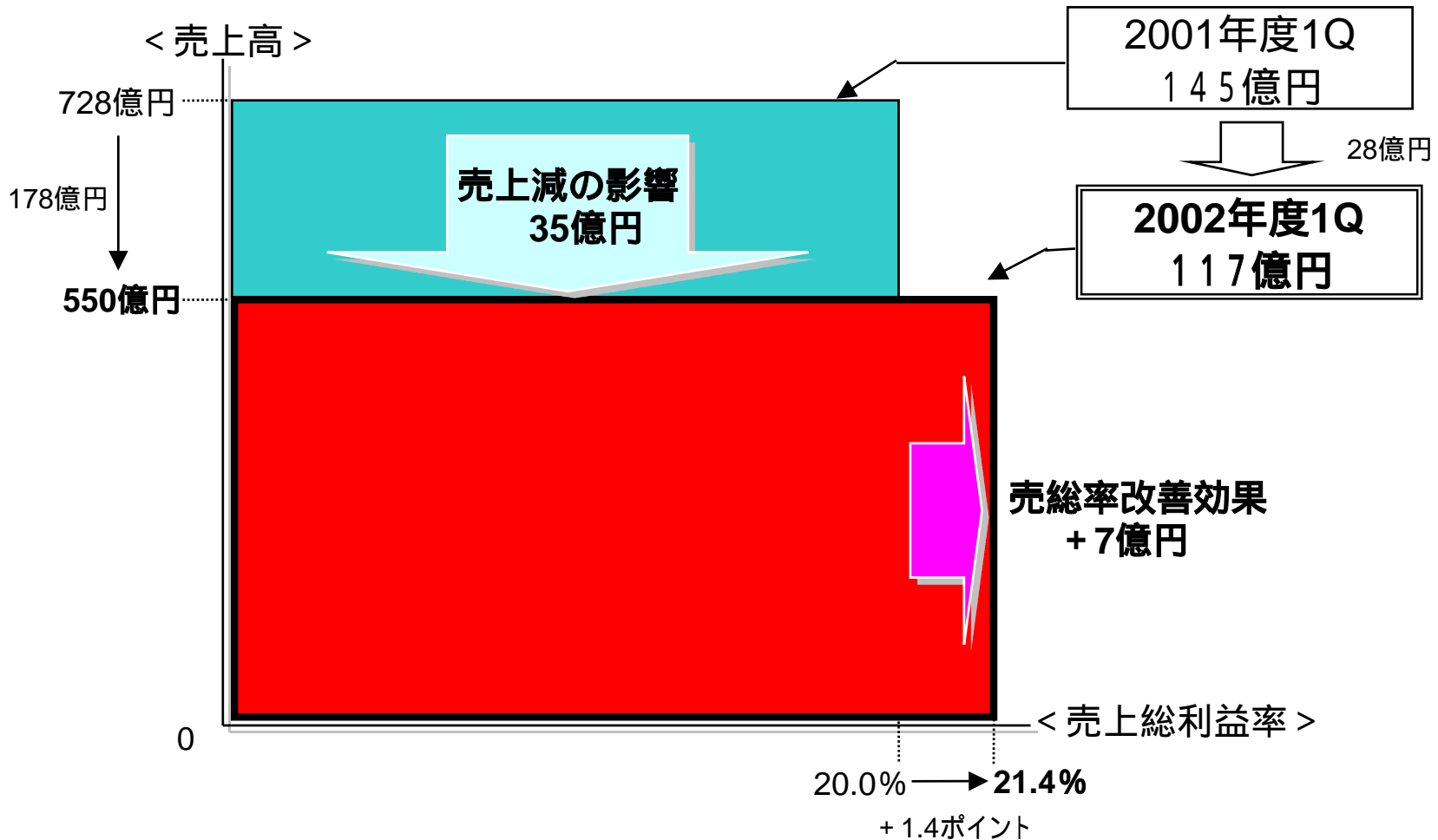
当四半期は、顧客企業に密着した営業活動を展開するとともに、採算性向上と経費削減に積極的に取り組みました。この結果、売上総利益率の向上と販管費の削減は進みましたが、売上の減少を吸収するには至らず、当期純利益は6億円(前年同期比68.7%減)となりました。

業種別売上高



通信放送：当第1四半期想定案件の遅延により、前年同期比40%減少。
その他業種：顧客の投資姿勢が慎重になったことにより前年同期比15.3%減少。

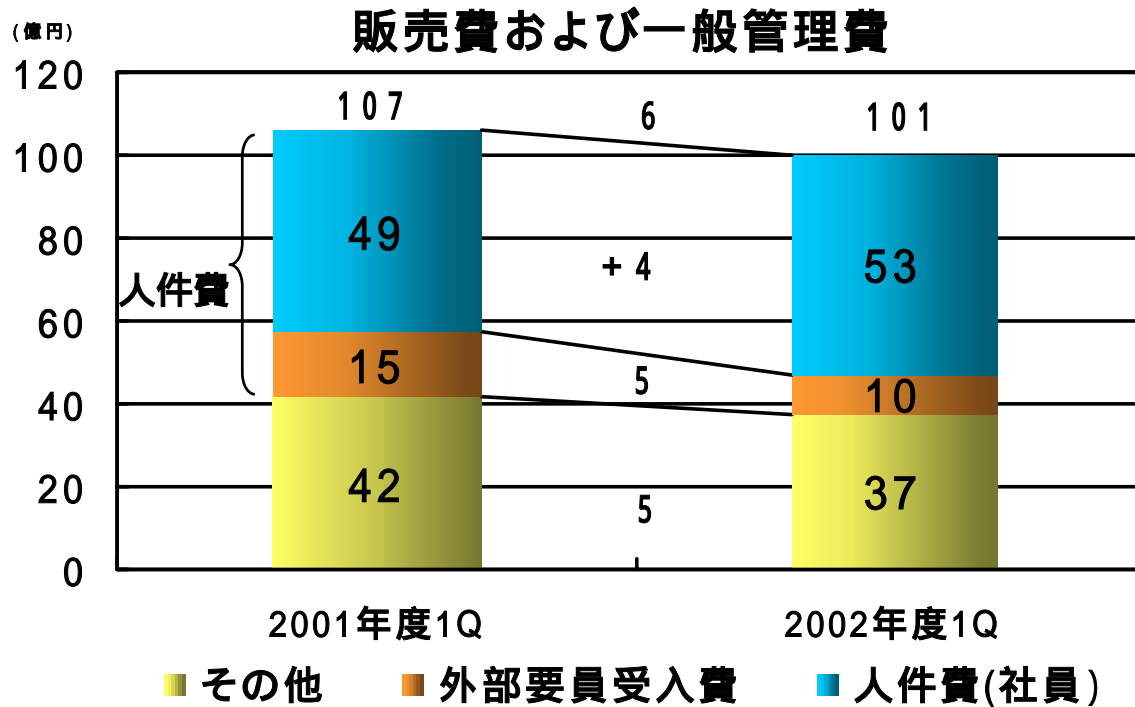
売上総利益



< 売上総率改善理由 >

従来より注力してきた安定収益事業である保守サービスの堅調な売上推移

販売費および一般管理費

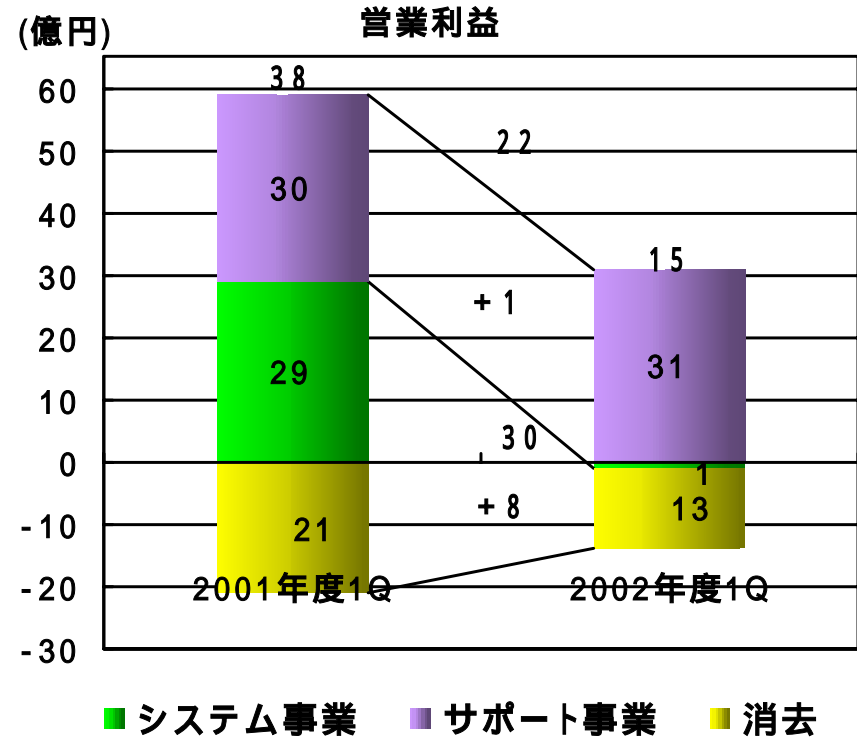
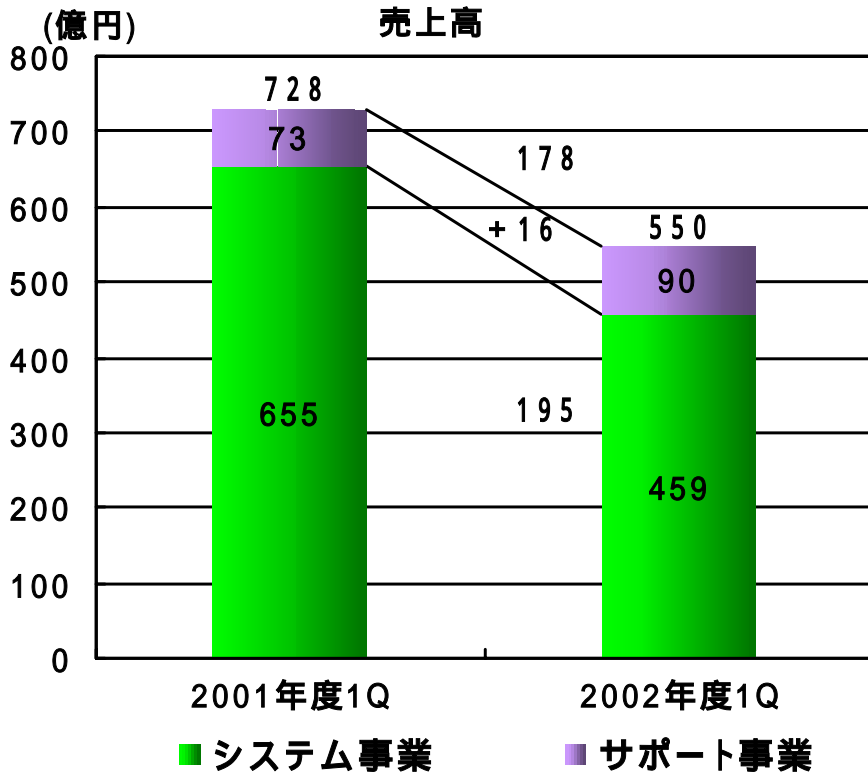


人件費(社員)	4億円増加	} 人件費1億円減少
外部要員受入費	5億円減少	
その他	5億円減少	



販管費6億円減少

セグメント情報



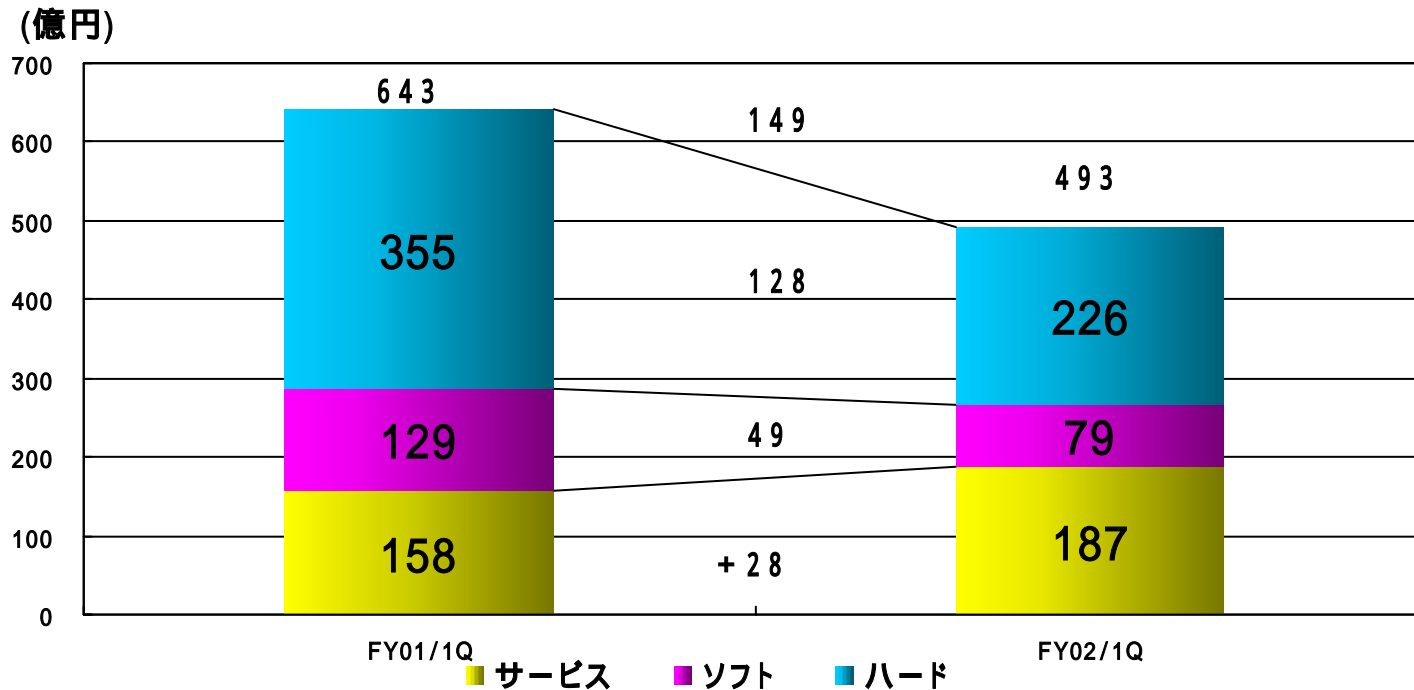
<システム>

29.9%の売上減は、通信・放送の売上が減少したことが主な理由。売上減少により販管費率が相対的に高まり、1億の営業損失となった。

<サポート>

主として過去2年のシステム納入の増加を反映し、売上、利益ともに堅調に推移した。

ハード/ソフト/サービス別売上(単体)



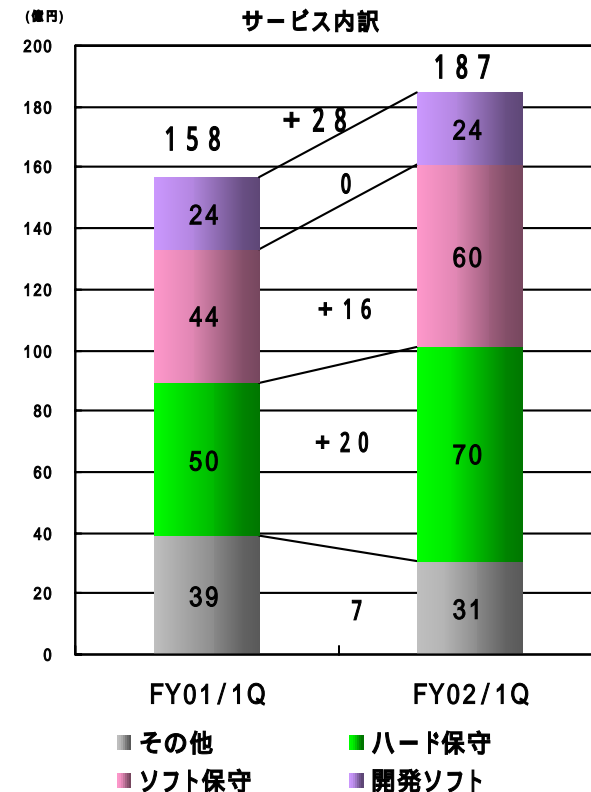
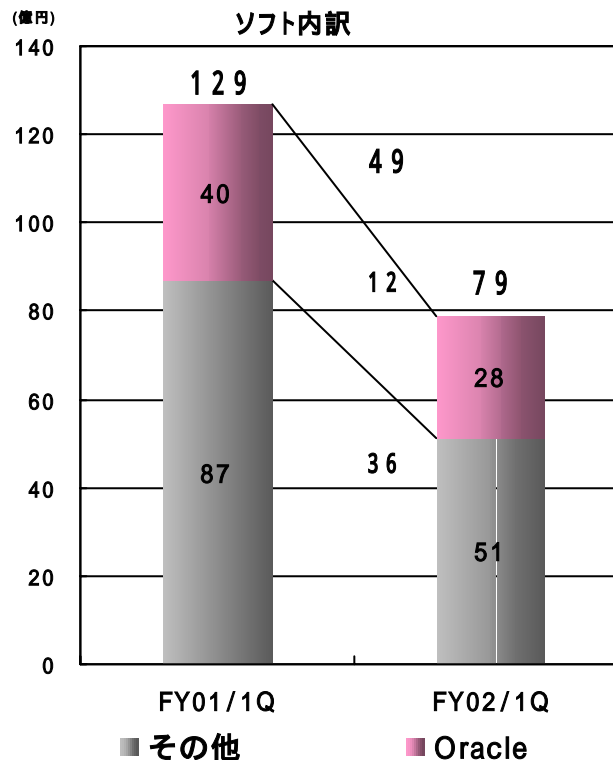
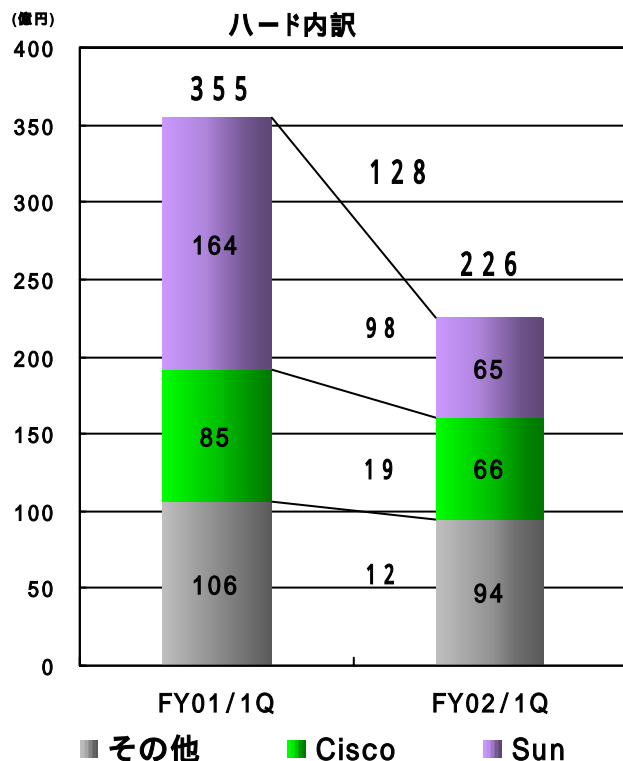
<ハード/ソフト>

一部大型案件の遅延による取扱減により、
ハード売上は前年同期比 36.1%、ソフト売上は 38.4%

<サービス>

従来より注力してきた保守サービスの増加を反映して伸長し、
前年同期比 + 17.9%

ハード/ソフト/サービス別売上詳細(単体)



<ハード/ソフト>

Sun製品売上 前年同期比 60.1%

Cisco製品売上 前年同期比 22.7%

Oracle製品売上 前年同期比 30.7%

<サービス>

ハード保守売上 前年同期比 + 39.8%

ソフト保守売上 前年同期比 + 36.4%

2002年度の業績見通し

 代表取締役 社長

 後藤 攻

2002年度上期 連結業績見通し

(金額: 億円)

	今回見通し		期初見通し		差異 (A) - (B)
	金額(A)	構成比	金額(B)	構成比	
売上高	1,230	100.0%	1,635	100.0%	405 (24.8%)
売上総利益	238	19.3%	316	19.3%	78 (24.7%)
営業利益	28	2.3%	84	5.1%	56 (66.7%)
経常利益	26	2.1%	86	5.3%	60 (69.8%)
当期純利益	10	0.8%	48	2.9%	38 (79.2%)

2002年度上期は、売上の減少分を経費削減で吸収しきれず、
 中間純利益は期初計画比 38億円の10億円となる見込みです。

2002年度 通期連結業績見通し

(金額:億円)

	今回見通し		期初見通し		差異 (A) - (B)
	金額(A)	構成比	金額(B)	構成比	
売上高	3,231	100.0%	3,600	100.0%	369 (10.3%)
売上総利益	595	18.4%	690	19.2%	95 (13.8%)
営業利益	171	5.3%	220	6.1%	49 (22.3%)
経常利益	162	5.0%	218	6.1%	56 (25.7%)
当期純利益	85	2.6%	121	3.4%	36 (29.8%)

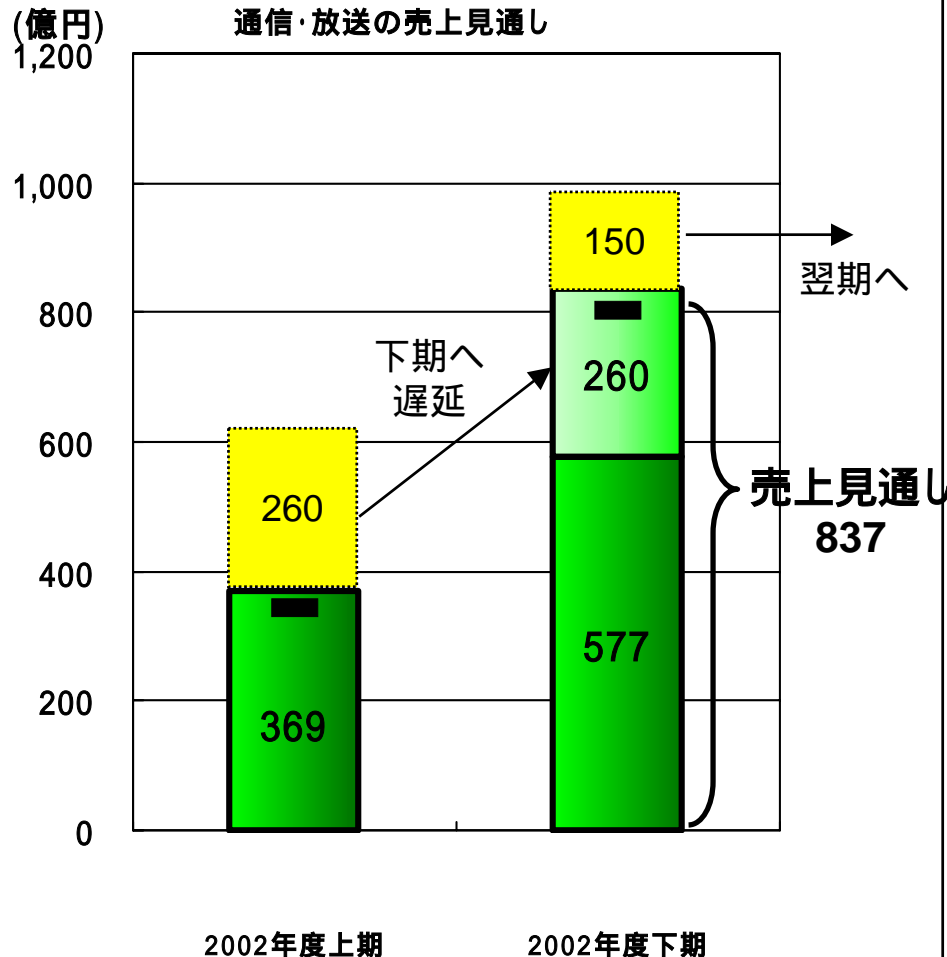
下期においては、上期売上の期初計画未達分を補うには至らずとも、期初想定通りの売上を達成できる見通しです。また、売上総利益率については景況の不透明感を勘案し、従来よりも慎重な想定とし、経費については一層の削減を図ってまいります。

これにより、通期の当期純利益は期初計画比36億円減の85億円となる見通しです。

2002年度連結売上見通し内訳

	上期	下期	通 期
通信・放送 (構成比)	369億円 (30.0%)	837億円 (41.8%)	1,206億円 (37.3%)
その他 (構成比)	861億円 (70.0%)	1,164億円 (58.2%)	2,025億円 (62.7%)
合 計 (構成比)	1,230億円 (100.0%)	2,001億円 (100.0%)	3,231億円 (100.0%)

通信・放送の売上見通し



上期

上期の期初想定案件のうち約260億円分が下期に遅延。

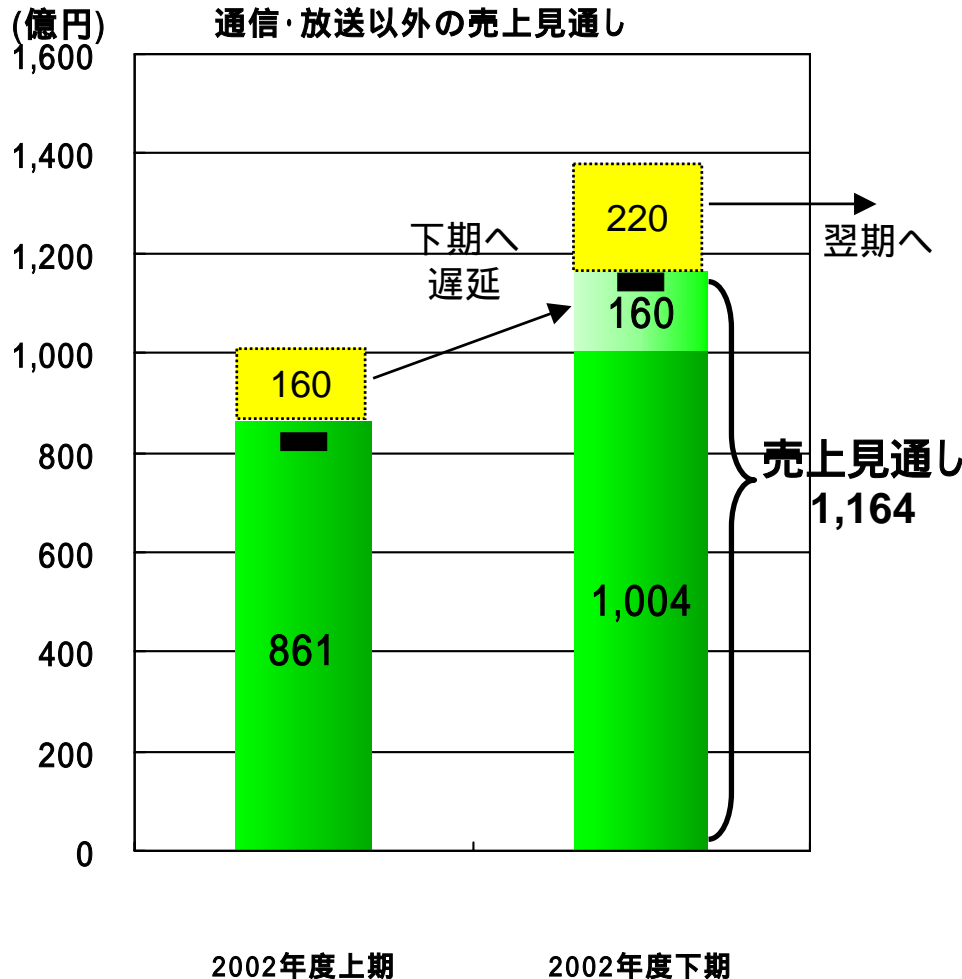
<理由>

既存顧客案件はサービスインフラ系にシフト。顧客の新規サービスメニューの優先度に左右されるため、今回の遅延が生じた。また、新規顧客案件は上期が受注仕込み段階となったため、成約/売上は下期に集中することになった。

下期

下期の想定案件については、昨今の景気不透明感を勘案し、翌期への遅延を15%程度折り込んでいる。

通信・放送以外の売上見通し



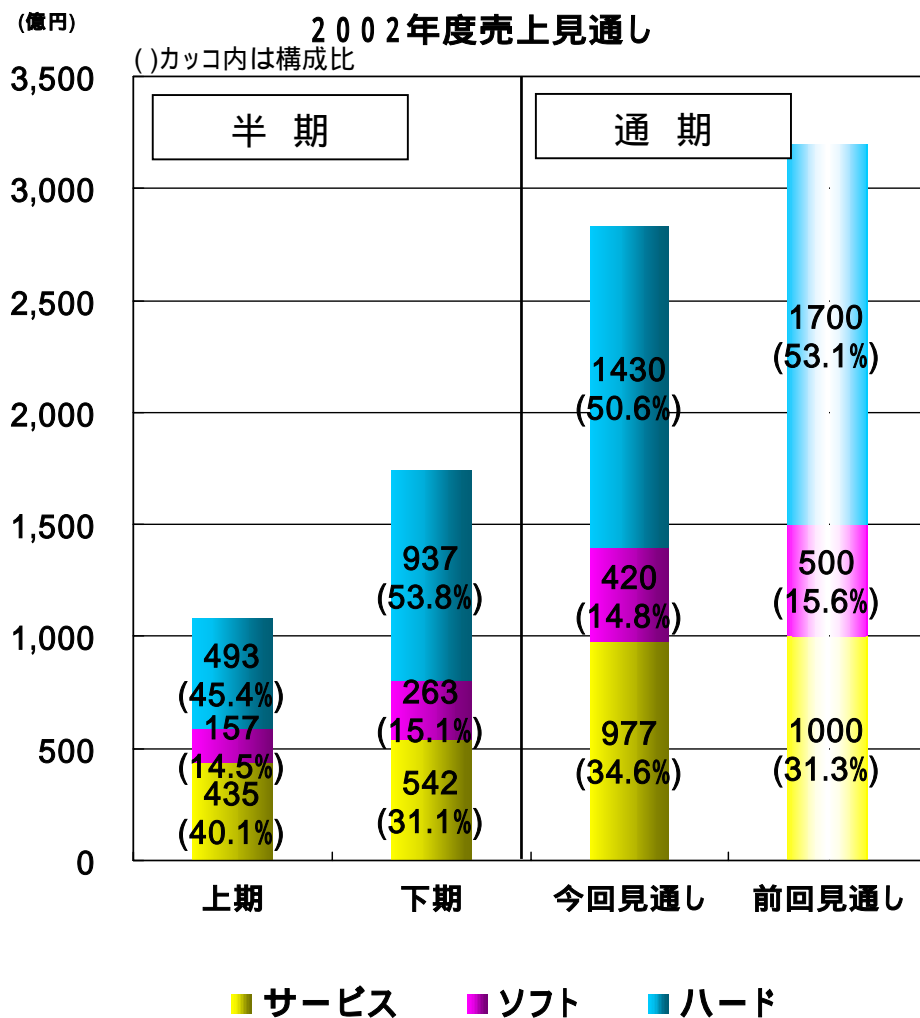
上期

第1四半期後半より、企業の設備投資抑制傾向が予想以上に高まり、案件の先送りが第2四半期に予想されることから下方修正した。

下期

景気の先行が依然不透明であることから、案件の遅延・先送りの懸念を15%程度織り込んだ。

ハード/ソフト/サービス別売上見通し(単体)



< 総 論 >

ハード、ソフトは減少するが、サービスについてはかねてからの注力が実り、売上は堅調に推移する見込み。

< ソフトウェア開発について >

前年度は、SI案件の獲得に注力し、売上は伸長したが、採算については課題を残した。

今年度もSI案件には積極的に取り組むが、同時に採算の観点から案件の選別を行っており、売上は前年度横ばいとなる見込み。この成果をステップに、翌期以降SI売上の更なる拡大を期す。

売上総利益率見通し

2002年度 売上総利益率(連結ベース)
18.4%

当期の売上総利益率は、IT投資の抑制、これに伴う競争激化等、景況懸念を慎重に織り込んだ結果、下期17.8%、通期18.4%を想定。



収益力重視型経営強化の一貫として、

1. サービス売上の着実な拡大
2. ソフト開発における採算重視と開発体制強化

を推進することにより、収益性の向上に注力。

販売費及び一般管理費の削減

- 今回見通しへの折り込み済み経費削減額 ... 44億円

< 主な項目 >

(単位: 億円)

費目	削減
人件費/外部要員受入費/業務委託料	17
広告宣伝費/家賃/賃借料	10
旅費/交通費/交際費/会議費	4
その他経費	13
合計	44